

ため池ハザードマップについて

• ため池ハザードマップの作成

ため池ハザードマップは、万が一、ため池が決壊した場合に、最大でどの程度の浸水範囲となるかを知るために、最悪の状況を想定した浸水予測をしたものです。

住民のみなさんがハザードマップを通じて、想定される被災を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上につながることを目的に作成しています。

• ため池ハザードマップの作成条件

現在起こりうる最大の危機を想定しました。

そのため、ため池が満水の状態で、貯水量の全量が流れ出す場合を想定しました。また、親子ため池の場合は、すべてが同時に決壊した場合を想定しました。

• 早めの判断と速やかな行動

決壊してから行動したのでは、手遅れになります。

あらかじめ、このハザードマップで水がせまりくる状況を知り、万が一の事態が予想される場合に、早めの判断・速やかな行動につなげてください。

• 避難するときの注意点

①安全な場所や建物に避難

大雨が降っているときや夜間に、外に出るとむしろ危険です。2階以上の高い建物や安全な場所に避難してください。

②浸水しているときの避難には注意

側溝等がないかを杖などで確認しながら歩いてください。水の深さが50cm以上（水の流れが急なときは20cm程度以上）のときは、むしろ危険な場合があります。

• ため池ハザードマップの情報

①浸水する深さ

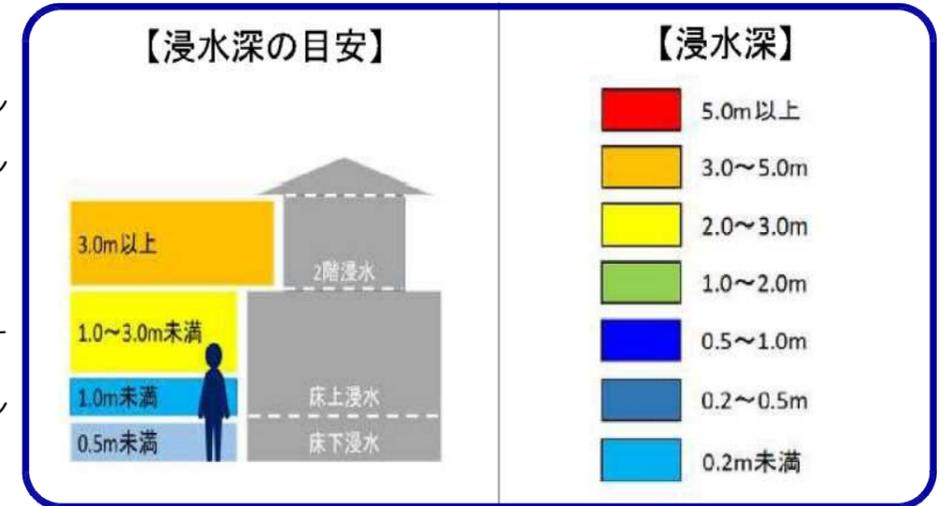
場所ごとに色分けして地図上に表示しました。

②到達時間

決壊した水が到達するまでの時間を表示しました。

③避難場所

避難できる場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは、指定された避難場所によらず建物の2階へ避難してください。



• 今後の対応

①ため池の地質調査

「堤体（土手）本体」や「堤体基礎」の土の性質が「砂なの？粘土なの？」、また、土の密度は「締まった土なの？緩い土なの？」といったことについて、現地にてボーリング調査を実施します。

②ため池の詳細調査

ボーリング調査の結果を基に、ため池の堤体が所定の耐震性を持っているかといった確認や、ため池施設的能力などの確認を実施します。

* 詳細調査後、補強工事などが必要な場合は、順次計画的に行っていきます。

